（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2392800104		
法人名	琴葉株式会社		
事業所名	グループホーム琴葉向陽　1F		
所在地	愛知県碧南市向陽町1-54		
自己評価作成日	令和3年3月2日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392800104-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル　2階
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭と同じように生活できる。入居者の自由な行動を束縛しないように、見守りをしっかりし、鍵をかける等の拘束をおこなわない。季節感のある生活をすごしていただき施設に入ったからできなくなったではなく、施設に入る前の生活が継続できるようしていただく。日々の生活時間を大切にし楽しみのある生活を味わっていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設から2年を経過し、近隣には小・中・高校、コンビニや公園などがあり、隣接する保育園の子どもたちの笑顔や笑い声に癒される環境にある。二階建ての事業所は明るく、最新の設備が整えられ住み心地よく、安心して暮らせる場となっている。会社の理念、『「スローライフ」ゆったりとした時間、空間の提供』を使命に、入居者と向き合い思いをくみ取りゆったりとしたケアに心がけている。地域情報を得たり、管理者が地域の班長を務め地域に溶け込めるチャンスと捉え、盆踊りや初詣、体操や陶芸教室など多くの行事に入居者と共に参加し地域との関わりも深まってきていたが、コロナ禍で今は踏み止まっている。外食を自粛をしているので、月1回「国際ランチ」と名付けて各国の料理や国旗などを作り国々の味を楽しんだりユニット合同昼食会を行ったり、入居者の希望に合わせてちらし寿司やハンバーグ等多彩な内容で食レクを職員と共に楽しんでいる。庭先での芋煮会や餅つき大会、ボランティアによる和太鼓の演奏などを保育園の子どもたちや通りすがりの人々とともに青空の下で楽しむ機会も大切にしている。年賀状や習字、お手玉作りや貼り絵、読書など今までしてきたことを大事にし、今の生活の中でできるような支援にも努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族的な生活環境をめざし、入居者一人一人に寄り添うようにしている。	法人の理念が玄関やパンフレットに掲載してある。理念の共有と実践について、目標達成計画に挙げ、職員一人ひとりが理念に基づいたサービスが提供出来るよう努めているが、理解と共有、実践につながっているかの確認が不明瞭である。	今年度目標達成計画に挙げ、理念の共有と実践に努力しているが、達成目標が6ヵ月であり、管理者や職員が、どこまで理念を周知共有し実践につなげているかはかり知るには不明である。管理者は目標達成計画に掲げるだけでなく、進捗状況を確認していくことを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の園児との交流をもつ。保育参観をみにでかけたり餅つきの見学に来てもらった。町内会に入会し回覧板をまわしてもらい、地域の行事に参加する。盆踊りや初詣にでかけた。市内の行楽地へ外出レクにでかけた。	町内会に加入している。地域の班長を務め、地域に溶け込めるチャンスと捉え活動し、近隣の方々との交流を深めることが出来ている。今年度はコロナ禍の為地域行事の自粛や外出規制があるが、感染予防対策を行いながら、隣接の保育園児との餅つきやボランティアによる和太鼓演奏を外庭で行い皆に喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して施設行事を告知して参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に対して施設の取り組みを広報しそれぞれの立場のかたから意見をいただいている。	常時であれば入居者家族や近隣代表、市会議員、市職員が出席して2ヵ月に1回開催しているが、今年度はコロナ禍の為、コロナ状況を確認しながら開催し、外部からの参加は市の職員が不定期に出席したのみで、他の方は書面での開催となっている。開催にあたって事前に意見を求めたり、意見や要望について丁寧に対処したりして運営やサービス向上に活かしている。議事録は家族や関係機関に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に参加いただき、意見をもらっている。運営上の不明点をといあわせしたり、密な関係を構築している。研修や講演会へ参加し顔のみえる関係をきづいている。	運営推進会議において、今年度は担当職員が不定期に参加している。出席できない時は、事前に意見などを書面や電話で収集をしている。事業所の運営やサービスについての相談や指導、アドバイスを受けるなど協力関係を築いている。今年度はコロナの影響で研修には参加できていないが、実践者研修等はリモートで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが行動抑制にもなる施錠を玄関や居室中に行わないよう努めている。言葉による行動抑制もしないように努力している。	3ヵ月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催し、身体拘束委員会で研修を行っている。外部からの講師を招いた研修も行い、身体拘束の内容を理解し実践に繋げているかはレポート提出等により確認している。玄関や居間の出入口施錠は夜間のみで、見守りに配慮して拘束感のない環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての身体虐待は当然行われていないが「言葉による虐待のないよう努めている。放置・ネグレクトを行わないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一人一人の権利擁護のために個人の尊重に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に料金や施設運営方針を話し、契約書をかわしている。料金改定時には入居者に説明し同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回の家族会で運営に関する意見をいただき、訪問時には状態を報告したりしてみつな関係を築いている。	入居者からは日々の関わりの中で希望や要望を聞いたり様子から察したりしたことを申し送りノートに記録している。家族からはコロナの影響で行事や面会が規制される中でも、その時々の感染状況を確認し、感染対策をしながら玄関で短時間の面会を行ったり、ラインや電話など家族が対応できる方法で要望や意見を聞いている。今年度、家族会はアンケートを実施し、結果を全員に送付している。意見や要望は職員間で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、運営に対する意見をとりいれている。行事計画をレク委員が提出し職員の意志を反映した施設運営をするようにしている	カンファレンスやスタッフ会議は全員が出席できるように2～3回に分けて行い、スタッフの意見を聞き運営に反映させている。新人研修終了後の意見は新鮮な目で見た貴重な意見として参考にしている。勤務終了後は、今日1日勤務の中で実施事項や感想などを個別に記載し、意見を吸い上げる材料としている。随時の個人面談や年2回ありる人事考課で職員の意見や要望、提案などをじっくり聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に基づき労働環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修で職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会や勉強会に参加して、施設の状態等の告知をしている。ネットワークを作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画作成時のモニタリングで個々の要望等を聞き取るようにしている。普段の些細な会話の中からもその方の人となりを聴取するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや入居時の契約時に情報聴取に努めている。入居後も訪問されたときにはサービスに対する意見をいただいたり、受診の際は健康状態を伝えながらご家族と施設側とでともに支えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集と入居後の状態観察、モニタリングをして本人に対する必要サービスを提供する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の際やレクの際には一緒になって楽しむようにしている。業務のみではなくゆっくりとした時間をもち会話をふやすようにしている。そこで入居者様との密な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時に様子を伝えたり、何かがあれば電話での連絡をしてタイムリーな様子を家族様にも伝えていくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活歴を家族から聴取しまた本人との日常会話からの情報収集で過去のなじみの場や人とのつながりを大切にしていく。実践とし墓参り、寺参りに同行している。	コロナ禍で外出や面会が規制され馴染みの美容院や友人との外出など中止を余儀なくされる中、職員は入居者に寄り添いじっくり話を聞いたり、入居前のことや現在の気持ち、要望などを聞くようにつとめている。その中から自分の好きなこと、趣味などを見つけ出し支援するように心がけている。習字や貼り絵、年賀状などの支援をしている。専門医受診の際、家族で食事をしたり、墓参り等家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がこじれ，いいあい等になったときは間にスタッフが入り円滑な関係になるようにしていく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のフオローとして利用者の入居時の様子を伝え、また退去後の様子等をうかがっていくようにしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはモニタリングを行いながら一人一人の希望意向を把握するようにしている。利用者本位のくらしができるようにつとめている	足浴の時や靴を洗ったりおやつ時間の後など、日常の何気ない時間の中で寄り添って話を聞き、思いや意向の把握に努めている。把握した思いや意向は申し送りノートに記録し、カンファレンス等で話し合い共有してケアに活かしている。意思表示の難しい方には本人本意に検討したり、家族の協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境、人間関係、親子関係を把握んしその人らしい生活していただけるようにしている。誕生日会への家族様参加を依頼したり毎月送る家族あてのお便りにはご様子や体重測定の結果をのせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしの流を入居者様に理解していただけるように予定表を作成し掲示している　入居者にわかるようなものを作成していく		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをし介護計画を作成している。それぞれのスタッフによる意見、アイデアを反映していくようにする。	月1回のカンファレンスで情報交換を行い、3か月毎のモニタリングを経て6か月に1回計画の見直しをしている。入居者や家族とはしっかり話し合って意向を確認し、医療関係者からの情報やアドバイスを反映させながら職員とケアマネジャーが中心となって現状に即した介護計画を立てている。状況に応じて随時の見直しも行っている。	職員は介護計画をいつも確認し、介護計画に沿ったケアが出来ているか確認が必要と思われるので、介護計画の様式は職員皆が見やすく、確認や評価しやすいものになっているか検討することを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とし、介護計画書や申し送りに記入をしている、職員間で連携し情報の共有をしている。排泄記録や個別バイタル表を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの変更を周知徹底しだれもが同じサービスをていきょうできるように努めていく		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの社会生活を踏襲し施設のまわりをとりまく地域環境の中で社会生活をいとなんでいただく。町内会への参加や町内の行事に参加して、施設のアピールをしている。施設の見学も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本、家族にお願いしている。往診は希望者のみうけている。施設としてのかかりつけ医はないが訪問看護の事業所が協力医療機関になっている。	入居前のかかりつけ医を継続し、受診は家族の協力を得ているが、困難時は通院支援を行っている。往診はかかりつけ医の往診で希望者のみ対応している。訪問看護が月2回あり、健康管理やかかりつけ医との連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は月2回訪問している。個々の入居者の情報を伝えアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には病院に情報を提供し連絡を密にとりあっている。退院時にはカンフアレンスを依頼し入院時の状態と今後にむけての対応をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは基本行わないと、入居時の説明で家族には話している。状態の変化が起きた場合は家族に即時に連絡し対応を検討している	入居時に本人や家族に看取りは基本的に行わない方針を説明し同意を得ている。状態に変化がある場合は早い段階から家族と話し合いを持ち対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には家族に連絡を即時におこなっている。救急搬送時には職員が同行し情報を伝えている。緊急対応時のマニュアルを作製し職員間で情報共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成と避難訓練を行い、職員間の連携と共有を行っている。役所への連絡情報を常に取り研修や訓練への参加を積極的に行っている	災害マニュアルを作成し火災や地震の避難訓練を昼間と夜間想定で行っている。市からの防災メールには常に目を通し研修や訓練へ参加している。備蓄は食料品や水の他、ヘルメットや毛布等を加えたが、リスト化して管理するまでには至っていない。地域との協力体制についてもこれからの課題としている。	コロナ禍であっても、災害や感染症の拡大はいつ起きるか予測がつかない状況の中で、発生時には地域の協力等必要となる。機会を捉えて早めに検討されることを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努め排泄の声掛けや着替え時のプライバシーの確保をしていく	接遇研修を実施し、プライバシーの確保やひとり一人の人格の尊重について学ぶ機会を作っている。声かけには特に注意し、名前は「さん」づけで呼び人格を尊重した対応に心がけている。排泄や入浴時の声かけも丁寧で優しい声かけをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の選択をしていただいたり外出への参加希望をうかがったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いままでされていたことを継続していただくために家事を手伝っていただいたり希望があれば外出をしていただいたりする、。睡眠時間の希望で起床時間も個人により宇		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類の準備は入居者と職員が一緒におこなうようにしている。衣類は常にチェックし汚染のないものをきていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事レクとしてちらし寿司・ハンバーグ・餃子・お弁当作り等をおこなっていただいている。その他合同昼食や施設前にて芋煮会・大根炊きをおこない外での昼食会、餅つき大会をおこなった。毎食事後の食器ふきをやっていただいたり、配膳や盛り付けをてつだっていただく	食材とメニューは業者委託となっている。調理は職員が行っており、入居者の好みにより食材をアレンジすることもある。入居者は保有能力やその日の気分に合わせて食器拭きや盛り付け、配膳等を職員と一緒に行っている。コロナ禍で外食を自粛をしているので、月1回「国際ランチ」と名付けて各国の料理や国旗などを作り国々の味を楽しんでいる。庭先で芋煮会や餅つき大会をしたり、ユニット合同昼食会を行ったり、入居者の希望に合わせてちらし寿司やハンバーグ等多彩な内容で食レクを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では食材業者の立てる献立を基本とし提供している。水分摂取は1日最低2回おやつ時にせっしゅしていただき、希望があれば適宜水分ほきゅうをしていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔のケアは毎食後におこない、また就寝時には入れ歯の洗浄を洗浄剤を使い行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ時の声掛けや見守りをおこない、全員トイレでの排泄をされている	個々の排泄パターンを把握し、適切な声掛けによりトイレでの排泄、自立支援に努めている。現在は全員トイレでの排泄が可能となっている。便秘予防では、乳製品を含めた食品や水分摂取、運動、習慣性等を取り入れ自然排便を促している。排泄管理表を作成し、排便がない時は訪問看護師に相談し早めの対処をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、薬剤に頼ることなく、牛乳や繊維質の物の摂取をしていただく。個々の状態を把握し排泄管理簿を作成している。未排便時は薬剤を使用される方もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をしていただき、個人のペースにあったゆったりとした入浴をおこなっている。入浴の曜日や基本としてあるが希望があればそれ以外の日にもにゅうよくをお声掛けする	週2回以上、午前中の支援としているが、希望があれば応じている。湯や足ふきの清潔、冬季はヒートショック等に留意し、個々のペースでゆったりとした入浴支援を行っている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節の湯を楽しんだり、入浴剤や化粧品は好みの物を使われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで入床をしてみえる。大晦日はテレビを見られる方に無理に就寝を強要せずゆったり過ごしていただいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し誤薬のないよう、常に注意をしている。服薬の内容については薬じょうを管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の食器ふきと洗濯物干しと洗濯たたみをお願いしお一人お一人の役割となっている。塗り絵や歌をうたい体操をしていただき日々の生活の気分転換とされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回の全員外出にはなじみのある市内の行楽地にでかけていただいたり、買い物への同行をしていただく。ご希望があれば美容院への同行やお墓参りにもでかけた。	コロナで外出や面会規制があるが、感染予防に留意しながら、散歩やドライブ、野菜の収穫体験等に出かけている。家族の協力を得て、孫が働く美容院や墓参りにも出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保持はトラブルになるということもあり、入居時にお断りしている。外出レクでえびせん工場に出かけたときにはひとり100円をしようしていただき買い物レクを楽しんでいただいた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については基本ご遠慮していただくよう家族に依頼しているが年賀状を全員に書いていただき家族あて送付した。個別でご家族から絵手紙をいただく方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど共有スペースで過ごされているので室温。換気塔に気を付けている。インフルエンザも流行っているので時間での換気をおこなっている。壁の絵を共同で製作したり季節の飾りつけをしている、居室のネーム板やトイレの位置はわかりやすくしている。	共用スペースは明るく皆で過ごす居間は、コロナ感染予防のため十分な換気が行われるよう、換気チェック表を活用したり、大型の空気清浄機が備え付けられている。適切な温度や湿度、清掃にに留意し清潔な環境作りに努めている。壁面には職員と入居者が共同作成した季節の貼り絵や作品が飾られている。ゆったりとしたソファーやイスが備え付けられ、それぞれにゆっくり新聞を読んだりテレビを観て過ごしている。	共用空間の廊下や階段下等色々な箱類が雑然と置かれているのが目につく。災害時や日常の業務、入居者の移動にも差しさわりがあるのではないかと懸念される。整理整頓をし、いざという時何がどこにあるか職員全員が周知し、適切に行動できることを望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は決まっているが時々席替えをしたりしている。個々の人間関係を把握するようにしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはなじみのものを置いていただくようにしているがあまり広いわけではないので入居時に最小限度とは依頼している。空調で環境整備に努めている。	入居時に馴染みの家具や小物を持ち込み、写真や手作りの作品を飾り自分らしい空間作りをしている。机や椅子を持ち込み自宅にいた時と同様に読書をしたり書き物をされる方もいる。コロナ禍のおり、換気に気を付け、掃除を職員と一緒に行い環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の人格を尊重しできること、わかることを継続できるようにしている。歩行しやすいよう手すりの確保や車いすでのすれ違いのできる幅の広い廊下やトイレを確保している		

（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2392800104		
法人名	琴葉株式会社		
事業所名	グループホーム琴葉向陽　2F		
所在地	愛知県碧南市向陽町1-54		
自己評価作成日	令和3年3月2日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392800104-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル　2階
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭と同じように生活できる。入居者の自由な行動を束縛しないように、見守りをしっかりし、鍵をかける等の拘束をおこなわない。季節感のある生活をすごしていただき施設に入ったからできなくなったではなく、施設に入る前の生活が継続できるようしていただく。日々の生活時間を大切にし楽しみのある生活を味わっていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設から2年を経過し、近隣には小・中・高校、コンビニや公園などがあり、隣接する保育園の子どもたちの笑顔や笑い声に癒される環境にある。二階建ての事業所は明るく、最新の設備が整えられ住み心地よく、安心して暮らせる場となっている。会社の理念、『「スローライフ」ゆったりとした時間、空間の提供』を使命に、入居者と向き合い思いをくみ取りゆったりとしたケアに心がけている。地域情報を得たり、管理者が地域の班長を務め地域に溶け込めるチャンスと捉え、盆踊りや初詣、体操や陶芸教室など多くの行事に入居者と共に参加し地域との関わりも深まってきていたが、コロナ禍で今は踏み止まっている。外食を自粛をしているので、月1回「国際ランチ」と名付けて各国の料理や国旗などを作り国々の味を楽しんだりユニット合同昼食会を行ったり、入居者の希望に合わせてちらし寿司やハンバーグ等多彩な内容で食レクを職員と共に楽しんでいる。庭先での芋煮会や餅つき大会、ボランティアによる和太鼓の演奏などを保育園の子どもたちや通りすがりの人々とともに青空の下で楽しむ機会も大切にしている。年賀状や習字、お手玉作りや貼り絵、読書など今までしてきたことを大事にし、今の生活の中でできるような支援にも努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族的な生活環境をめざし、入居者一人一人に寄り添うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の園児との交流をもつ。保育参観をみにでかけたり餅つきの見学に来てもらった。町内会に入会し回覧板をまわしてもらい、地域の行事に参加する。盆踊りや初詣にでかけた。市内の行楽地へ外出レクにでかけた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して施設行事を告知して参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に対して施設の取り組みを広報しそれぞれの立場のかたから意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に参加いただき、意見をもらっている。運営上の不明点をといあわせしたり、密な関係を構築している。研修や講演会へ参加し顔のみえる関係をきづいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが行動抑制にもなる施錠を玄関や居室中に行わないよう努めている。言葉による行動抑制もしないように努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての身体虐待は当然行われていないが「言葉による虐待のないよう努めている。放置・ネグレクトを行わないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一人一人の権利擁護のために個人の尊重に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に料金や施設運営方針を話し、契約書をかわしている。料金改定時には入居者に説明し同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回の家族会で運営に関する意見をいただき、訪問時には状態を報告したりしてみつな関係を築いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、運営に対する意見をとりいれている。行事計画をレク委員が提出し職員の意志を反映した施設運営をするようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に基づき労働環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修で職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会や勉強会に参加して、施設の状態等の告知をしている。ネットワークを作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画作成時のモニタリングで個々の要望等を聞き取るようにしている。普段の些細な会話の中からもその方の人となりを聴取するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや入居時の契約時に情報聴取に努めている。入居後も訪問されたときにはサービスに対する意見をいただいたり、受診の際は健康状態を伝えながらご家族と施設側とでともに支えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集と入居後の状態観察、モニタリングをして本人に対する必要サービスを提供する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事の際やレクの際には一緒になって楽しむようにしている。業務のみではなくゆっくりとした時間をもち会話をふやすようにしている。そこで入居者様との密な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時に様子を伝えたり、何かがあれば電話での連絡をしてタイムリーな様子を家族様にも伝えていくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活歴を家族から聴取しまた本人との日常会話からの情報収集で過去のなじみの場や人とのつながりを大切にしていく。実践とし墓参り、寺参りに同行している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がこじれ，いいあい等になったときは間にスタッフが入り円滑な関係になるようにしていく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のフオローとして利用者の入居時の様子を伝え、また退去後の様子等をうかがっていくようにしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはモニタリングを行いながら一人一人の希望意向を把握するようにしている。利用者本位のくらしができるようにつとめている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境、人間関係、親子関係を把握んしその人らしい生活していただけるようにしている。誕生日会への家族様参加を依頼したり毎月送る家族あてのお便りにはご様子や体重測定の結果をのせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしの流を入居者様に理解していただけるように予定表を作成し掲示している　入居者にわかるようなものを作成していく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをし介護計画を作成している。それぞれのスタッフによる意見、アイデアを反映していくようにする。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とし、介護計画書や申し送りに記入をしている、職員間で連携し情報の共有をしている。排泄記録や個別バイタル表を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの変更を周知徹底しだれもが同じサービスをていきょうできるように努めていく		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの社会生活を踏襲し施設のまわりをとりまく地域環境の中で社会生活をいとなんでいただく。町内会への参加や町内の行事に参加して、施設のアピールをしている。施設の見学も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本、家族にお願いしている。往診は希望者のみうけている。施設としてのかかりつけ医はないが訪問看護の事業所が協力医療機関になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は月2回訪問している。個々の入居者の情報を伝えアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には病院に情報を提供し連絡を密にとりあっている。退院時にはカンフアレンスを依頼し入院時の状態と今後にむけての対応をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは基本行わないと、入居時の説明で家族には話している。状態の変化が起きた場合は家族に即時に連絡し対応を検討している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には家族に連絡を即時におこなっている。救急搬送時には職員が同行し情報を伝えている。緊急対応時のマニュアルを作製し職員間で情報共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成と避難訓練を行い、職員間の連携と共有を行っている。役所への連絡情報を常に取り研修や訓練への参加を積極的に行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努め排泄の声掛けや着替え時のプライバシーの確保をしていく		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の選択をしていただいたり外出への参加希望をうかがったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いままでされていたことを継続していただくために家事を手伝っていただいたり希望があれば外出をしていただいたりする、。睡眠時間の希望で起床時間も個人により宇		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類の準備は入居者と職員が一緒におこなうようにしている。衣類は常にチェックし汚染のないものをきていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事レクとしてちらし寿司・ハンバーグ・餃子・お弁当作り等をおこなっていただいている。その他合同昼食や施設前にて芋煮会・大根炊きをおこない外での昼食会、餅つき大会をおこなった。毎食事後の食器ふきをやっていただいたり、配膳や盛り付けをてつだっていただく		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では食材業者の立てる献立を基本とし提供している。水分摂取は1日最低2回おやつ時にせっしゅしていただき、希望があれば適宜水分ほきゅうをしていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔のケアは毎食後におこない、また就寝時には入れ歯の洗浄を洗浄剤を使い行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ時の声掛けや見守りをおこない、全員トイレでの排泄をされている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、薬剤に頼ることなく、牛乳や繊維質の物の摂取をしていただく。個々の状態を把握し排泄管理簿を作成している。未排便時は薬剤を使用される方もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をしていただき、個人のペースにあったゆったりとした入浴をおこなっている。入浴の曜日や基本としてあるが希望があればそれ以外の日にもにゅうよくをお声掛けする		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで入床をしてみえる。大晦日はテレビを見られる方に無理に就寝を強要せずゆったり過ごしていただいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し誤薬のないよう、常に注意をしている。服薬の内容については薬じょうを管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の食器ふきと洗濯物干しと洗濯たたみをお願いしお一人お一人の役割となっている。塗り絵や歌をうたい体操をしていただき日々の生活の気分転換とされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回の全員外出にはなじみのある市内の行楽地にでかけていただいたり、買い物への同行をしていただく。ご希望があれば美容院への同行やお墓参りにもでかけた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保持はトラブルになるということもあり、入居時にお断りしている。外出レクでえびせん工場に出かけたときにはひとり100円をしようしていただき買い物レクを楽しんでいただいた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については基本ご遠慮していただくよう家族に依頼しているが年賀状を全員に書いていただき家族あて送付した。個別でご家族から絵手紙をいただく方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど共有スペースで過ごされているので室温。換気塔に気を付けている。インフルエンザも流行っているので時間での換気をおこなっている。壁の絵を共同で製作したり季節の飾りつけをしている、居室のネーム板やトイレの位置はわかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は決まっているが時々席替えをしたりしている。個々の人間関係を把握するようにしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはなじみのものを置いていただくようにしているがあまり広いわけではないので入居時に最小限度とは依頼している。空調で環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の人格を尊重しできること、わかることを継続できるようにしている。歩行しやすいよう手すりの確保や車いすでのすれ違いのできる幅の広い廊下やトイレを確保している		